

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q3-1. 今回シンポジウムに参加して、意識や考え方が変わった点が何かありましたか？
7 その他
「水利」の話があまりなかったのは残念
学問的な特殊語(専門語)で一般人に語らないこと。通じなければ意味がない。無駄となる。
環境について人間が考える場合、多少の偽善的な面が見え隠れしていて(本人に自覚がなくとも)、でも、それぞれはより良い方向に向かいたいという意識はあるわけで、人間というものが自然に対してどう対応していくかは、思っているよりも難しいことだと改めて認識しました。
感心の多様化
合意形成について
市民参加のあり方
シンポで聞くまでもない
生物の育つ渚づくりを！
設問にある様な事がシンポで議論されましたか?なかったのでは
設問に対してより深められる内容を望みます。
遙さん、また嘉田さんの指摘されたとおり、「自然に対する一般人の考え方」、単的にしてよく分かった。
水は有限な資源でありそれを有効に利用する大切さ。
メタ「自然」観のギャップを埋めるための工夫の必要性(ひょとして男女ギャップ??)
もともとどれも問題意識を抱えているのであまりかわらない
利用の重要性
議論の大切さ
人間が川をなぶり過ぎることによるへいがい
世間へのアピール不足
総合的な人の有り方
地域住民(素人)に意見をもらうことの大切さ
都会人とのかかわり方
なし
特になし

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q3-2. 日常生活の中でこんな行動を起こしたいと思ったことがあれば、ご自由にお書きください。
1)川にものを捨てない 2)子供たちに正確な情報を伝え、教える。 3)市町村が積極的に行事をやり、市民の認識を広めて、協力を促すこと。 4)危険が前面に出るのは、行政が責任を恐れるからであり、市民も自己責任と甘えを除くこと
1)もっと川を深く掘り、河川管理を徹底すべき。山に木を植える。池を残す 2)よしや川の植物を残す
1. 生活排水と衛生面:病人や老人介護面の清潔さを保つためにどれ位水の利用をすればO.K.なのか。(節水との関連)。 2. 天然災害:台風や、他府県の河川管理の方々のご意見の交換があれば進歩するのではないのでしょうか。
10数年来、小生京都御苑内外の井戸水(地下水)に関心を持ち、又当然その水を毎日早朝にペットボトルにくみおき、飲んでいきますので水道水を体内に入れることは全くありません。京都北山からさらに北へのぼって山々に降る雨が酸性雨であれば、その水が地下に浸透して井戸水として上京区の御所近辺でくみ出した時に水質汚染されていないかとやがて心配になります
①水質保全の大切さ 何しろ川が汚れている。全く汚染されている。飲める水も飲めない現状である。そのため産廃物の不法投棄を絶対やめさせたい。 ②水害への危機意識 私自身S28年8月、南山城大水害(木津川上流)にあった被災者の一人です。水はなくてはならない資源である半分魔物である。大水害はまだまだ予想される。河川対策に税金を有効に使ってほしい。
50近く話し合いがされても、自然の捉え方に違いがある。やはり、前提条件にエネルギーをかけ、その後に検討すべしと思った。
雨水は節水にもなるし、水害の時のライフラインの非常用となるので利用していきたいと思いました。
雨水利用を更に発展させて中水道の敷設を考える必要あり。今後ある程度の面積・戸数を有するニュータウン建設には中水道の敷設を義務づけてはどうか。
いずれの項目も日頃から持っている意識です。河川の美化運動を住民運動として実施。単にゴミ拾いでは駄目で併せて河川の自然鑑察会などを行う。
今、本当に流域住民が川との関わりを望んでいるのだろうか？
各人様々な意見をギロンする必要である。 これらをどう集約し、決定するかが問題、自ら意見を出してギロンに参加したい。
河口付近の広い河川敷利用は、それだけでシンボをやってもよいのではないかと、非常に難しいが。 ただ、自然(川上さんのような原始自然)派?のグループが沢山あるので、それをプラスに位置づけるのはそれはそれでちゃんと別にやるべき。ダムも別。
河川環境を守るボランティアに参加したいと思いました。
河川敷にグラウンドがあり、そこでスポーツをすることで自然を知り洪水で冠水する事で自然の怖さを知ることができるのでは？
河川敷に農園をつくることでちゃんと行政から許可をもらいたい。
河川敷の自然観察会を行い、グラウンドや公園となっているところと自然のままの所を比較し自然度の違いを認識し、川のあり方を考える。
河川敷利用の具体的内容を考えていきたい。
桂川流域松尾橋下流に、個人的な畑が敷地内にある。水域における、共用的な、住民、市民の水に対応し、利用、遊びにできるようにしてほしい。
川づくりの基本は治水(洪水から住民を守る)であることにはかわりはない。しかし、私達の生活のスタイルから、川をいじめてきたこともまた実際です。水を使うだけ使い、濁すだけ濁す。これは目の前から不都合なものはなくなればあとは知らないといった、価値観が現在多いのではないかと。水質保全の大切さに関して、ライフスタイルを変えることの必要性に気づくような行動をしたい。
川と親しむイベントなどがもっと増え(特に学校が土日休みになったこともあり)川との距離が縮まれば、みんなの考え方(特に若い人の)がかわるのではないのでしょうか。子供の頃川と親しんだ40代以上の人と若い人とのギャップは大きいのではないのでしょうか。
川の利用を考えてみたい
川への(水への)取り組み方について、嘉田、川上氏の真摯な姿勢に感動した。
環境省環境カウンセラーとして現在の河川の水質の実態。特に底質の環境ホルモン濃度が大変危険。海に流して閉鎖系海での環境ホルモン汚染に連なることの危険を市民に啓蒙したい。
官にまかせないで、我々住民が先頭になって、これからの河川事業を検討すべきだと思う。
現在、滋賀県守山市においてモデル河川づくりに挑戦しています。(赤野井湾流域協議会、目田川モデル河川づくりの会)
現在の生活の中で川との関わりを持つと言うことは難しいと思う。以前(明治期)は川を生業とする人、川で洗い物をする人も多かったと思う。然し、そういう頃でも川と離れた距離に住んでいた人は関わりはあったのだろうか？
現状、防災は役所でやっており、住民はそれのサービスを受けるだけなのが問題。似た例に過剰なPL法があるがサービスを受けるだけの消費者は傲慢になってしまう。嘉田先生の話にもありましたが、住民が水防に携わる事によって対応力が身についてくると思うので、そういう活動に参加したい。
現スカウト活動に河川スカウトを設けては？委員から「河川レンジャー」の提案があったが、河川局の一部機能を放棄して自治体をまたがる流域単位にそのような制度になるなら賛成(屋上居を重ねない。公共予算に頼らないことが原則)。←都市河川は巨大になりすぎ、市民、水防団レベルで対応できなくなった。
行動を起こした云より、もう前から起きている。河川高水敷のゴミ収集等、清掃をしている。それはさえずり等の大阪の小さな自然を求めて行っているのである。 本日の川上委員の言には、非常に残念に思う。

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q3-2. 日常生活の中でこんな行動を起こしたいと思ったことがあれば、ご自由にお書きください。
この種の知識をもっと深める必要有り。今回の会でも多くの得るもの有り。
今回は淀川水系流域のシンポジウムだったが自分の住んでいる地域を流れる淀川の支流である川についての話がなかったのが残念だった。なので、大きい淀川やその源となる大きな川だけでなくより多くの地域のより小さい支流への事ももっと考えてほしいと感じた。
コンサル、開発型の土木関係の人と都会人との関係
産業活動を通じて水質保全を行っています。
自然環境の保全。子供達を自然の中に連れて行ける施設の整備。レジャーと自然のすみわけの必要性。
自分自身が近くの川を良く知り、他の人をきちんと案内が出来るようになりたい。当然、メリット・リスクを合わせて説明をしたい。少しでも川に関心を持ってもらうことで川をきれいに出来ると思います。
自分自身が流し出す水＝排水についてじっくり考えたい。これを1人でやってもどうなんだろう？世の中の人々がそのことを深く考え直す契機を必要としていると思う。下水道が完備されることが水環境にとって素晴らしい施策だったはずなのに何でもかんでもは流せば事が済むような錯覚をもって大多数が無意識に簡単に毒を流し続けていることが恐ろしい。大象が簡単に使えるものに毒を商品に入れない。そんな働きかけがもっと大事なことでないかと思う。
自律した市民として、水利用を考えて節水に努め、家庭用排水がどのように河川等に影響を与えるか考え行動していきたい。
少なくとも私個人が排出する日常の“水”を浄水を念頭に置き無闇に汚水として排出しないことから始めていきたいと思いました。
生活廃水のたれながし全面禁止。もしくは課題処置。
それが「アウトドア」と呼ばれようと「エコ・ツーリズム」と呼ばれようと川の思惑を実感しうる仕組み(楽しく)の整備。実感こそ入り口である!→より広い強いコミットメント
楽しめる川へ。散歩、ジョギング。
治水の限界をもっと前面にだした行政広報。
堤防について認識を新たにして、今までより身近になりました。今回のシンポではあまりに洪水など危機に話が集中しすぎた様に思います。インターネットを通して情報に接していきたい。
出来るだけ節水したいと思っている。節水と防災の面から風呂の水を一週間は抜かない。使った分は水を入れる。そして万一の火災や水道が止まった時に利用しようと思っている。加えて雨水を貯めたいと思う。これから庭の草花に水やりをする水に使いたいと思う。
どのような河川をつくりたいと考えているのかが概念的でよく判らない。河川幅を拓げなくて、河川環境を生態系的に回復しようとすればダム的重要性が高まるのではないか。
どの点についても知っていたことばかりでしたが水質保全や自然環境保全の大切さについてもっと多くの人に関心をもっとほしいと思いました。川上さんの考えに一番共感できました。
ビジネスとして水質保全の大切さを感じているところです。今現在は琵琶湖の水質浄化を目的としたものづくりをしています。革を使った寝装品の開発に努めています。消費者がこれらを使用することで多くの方々に環境保全に参加していただけたかと思う毎日です。
秀吉は400年前に京都市伏見区向島に中国のドウテイ湖様の巨椋池をつくって、増水による調節をしていた。水害対策だ。
人と河川との関係。人と自然との共生について考えさせられた。
琵琶湖と川の水質保全。環境を守る。
本日の討論の中で、雨水の利用、一時溜める話があり、私の考えと同致であり、ダムも必要であるが、溜池の活用、棚田の活用、各家庭での雨水の利用、雨水の地下水化の促進等で少しでも雨水を多く保水する国造りを進めてください。また、スーパー堤防よりも堤防の補強、強化を最も早く進めるべきと考える。
水に親しむ。工夫が少ない現状を安全を確保した水辺の在り方を実践されて行くことを期待する。
水は限りある資源。特に飲料水の価値。上水はより大切にしたい。
水辺に近づける場所を沢山設けるべし。
もうとっくに行動を起している人達をもっといいことを聞こうとしてきているのでは?ただそんな人を一人でも多くふやさなければならぬ。それに充点をおくべきでは?
もっと多くの流域住民がそうした意識をもてるように出来ればと思います。
柳や松、水草、ヨシの植栽に少しずつは協力したい。
大和川が日本一汚い川であるにもかかわらず、何ら奈良県には改善のための具体策はないのが残念である。流域上流に住む住民としてやるべきことの必要性を痛感している。佐保川、富雄川、初瀬川流域はほとんど住宅地化され、川は遠くなりつつある。
より一層節水に取り組みたいと思います。主婦がもっとこの様なシンポジウムに参加する様になりたいと思います。
一人一人が毎日川の浄化を考える。防災の考え方。自然をアマク見るな。逃げる努力と水防意義。
雨水の利用
雨水利用、具体的には庭の草花や木の水まきの時に利用しようと思う。
河川敷(高水敷)を家庭菜園に使用したいという意見があったが、減反が行われている現状では、近隣農家との契約で家庭菜園を推進すべきである。行政の仲介があってもよい。
河川敷のグラウンドを唯一の関わりがあるものにとって、余り整備がされていない(グラウンドに入るまでの道が狭いなど)日曜のみならず平日でも多勢の利用者があふれているため利用がときとして出来ない

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q3-2. 日常生活の中でこんな行動を起こしたいと思ったことがあれば、ご自由にお書きください。
気付いた時、場所に速やかに実行したいと思う意識が向上しました。
個人の河川利用について聞いてみたい。雨水に利用ですが東京の下町でも聞いたことがあります。ポウフラがわからないためには魚がいたら良いそうですが適当と認めたものには太陽光発色のように補助するの一手法です
固く考えず気がるに、自然な気持ちで取り組みたい。
今後住民がどのように参加していくか?
今後水を大切にしたい
私も、河川に遊びに行く時、ゴミを集めて持って帰り家のゴミと一緒に出していましたが、川で湖でゴミを捨てて、多数が中・高校生グループがほとんどで一部大人の集まり(職場、地域での行事)でバーベキューやスポーツ後なのですが、それは川から一番離れている人(教育→川は危険)達であるという思いがあり、それを変えていかないといけないと考えます。
自分の持てる能力を発揮して環境管理マネジメントシステムの仕事を今回のシンポジウムに関連付けて、自信をもって推進します。(琵琶湖の水害を考えると瀬田川唐橋左岸のお寺の門標に明治の大水害の水位がきざまれている。これを見たとき、湖岸の別荘の土地を買うことをヤメにした。もっとアピールしてほしい。若い人たちに!!)
実地に現状を把握する
住民による河川環境調査をもつと頻繁にやっつて、しかもそれらのデータを利用するシステムを作っつてはどうか。現状の認識の共有が重要。
人の命は火(体温)水(体液)風(呼吸)水を大切にしなければ人の将来はないと思う。行政の権益を守るなどと云うことは、人類にとっては、ささいなこと大きな見地に立っつて考えてほしい。
節水への一層の努力をしたい。ただ水質保全のための洗剤不使用などできるかというところ日常生活の利便性を考えると踏み切れないのが実情です。
川づくり会議出席。 (東近江川づくり委員会、愛知川、新川取付工事等でいろいろ勉強出来ありがとうございました。)
川を身近に使っつている者が意見をだしあえる場をもつともつと作り、その地域の川を1つの意見にまとめれるようにする。例えば(漁協等)が先頭に立っつて
川整備の関心を持つようにする
川遊びしたい人この指とまれ!という事が出来ればいいなあと思っつます。老若男女を問わず
村づくりに、せせらぎの有る川の取り入れを提唱。農業に必要な水不足をどう解消するかにてダムの必要性の認識。
地域の自治組織が環境保全、河川管理に取っつ組む必要がある。
日々の業務に生かします。
農林業の再生による公益的機能の復活(水環境は水があっつてこそ話題になりえる。水源涵養等森林の持つ多面的機能もこの委員会で再生を目指っつてはどうか)木材不況、従事者の高齢化等、農林業をとりまく今後の状況も暗いと言わざるを得ない
木津川河川敷の整備
淀川の「城北わんど群」のクリーン保全にかかわっつているので市民が「わんど」にもつと注目してほしい—そのような運動を恒常的に行っつたい
良好な河川環境の素晴らしさを次世代の子どもたちにしっつかりと伝えたい。
なし
なし
なし(実感がない。) 「このままでは大変なことになる」とはどのようなことか全くイメージ出来ない。とことん「どん底」にならないと実感しないのはやっつぱりおかしい。

【当日アンケート集計結果・資料編】

<p>Q4-1. より多くのおみなさまに意見を聴く方法として、具体的なアイデアがあれば教えてください。</p>
<p>「淀川の日」等の名前と月・日を決め、河川でイベントをする。</p>
<p>①河で何が一番に変えていかなければならないか(優先するもの)を決めることを委員にやってもらいたく、議論をつくしてもらいたい。②市町村長等の意見を聞く</p>
<p>①住民が上・下流問題等を理解するためには、特に上流部でイベント的(部会)を実施②インターネットでアンケート</p>
<p>3部会それぞれが近くの市民の憩いの場、例えば、市民会館等に意見箱を設置する。</p>
<p>No1 熟成しきった経済社会の今、小生は「全てを自然に戻そう」Return to natureを提言し、煙突の如き数多いマンションの屋上に緑を作ろう。それに鳥が来る、樹木が育つ酸素が生れるといいたい。</p>
<p>Q3-2にも少し書かせていただきましたが、小さい範囲のみならず日本全体及び世界の環境の事をもっと良く慮み例えば京都会議の温暖化との関連とも勉強してもらいたいものです。</p>
<p>web掲示板の設置</p>
<p>アンケート文の「一般の流域住民」に対して:特別の住民とは誰ですか。もっと範囲を狭めてワークショップをする。</p>
<p>アンケートを行う</p>
<p>委員が回答する場面をもつ、イベントを期待する。</p>
<p>委員が現地に来ていただきたい。</p>
<p>委員とともに現地に赴く。</p>
<p>委員の方々と現地で話し合いをもちたい。</p>
<p>意見があっても府・町の河川管理者に伝わっていない。集まった意見は委員だけのものか? 府市町河川担当者も委員会の存在を知らせるべし。意見のメ切り日に間に合わないことを理由に、当日会場で意見を述べる者があるが、当日会場では新規意見は差しひかえさすこと。質疑のみにとどめること。</p>
<p>一般住民が参加できる。散歩のような集まりの内で老若男女、子どもが自由に遊べるよう。行政も協力し、自治会も参加する方向へ努力して欲しい。</p>
<p>一般人も委員会の会議を聴けるよう(意見を発表できるよう)場を作ってほしい。</p>
<p>一般の方々の考えをわかって欲しい。</p>
<p>インターネットOK</p>
<p>インターネットでアンケートを行う。</p>
<p>インターネットでアンケートを行う。</p>
<p>インターネットでアンケートを行う(問題意識も同上する)</p>
<p>インタビューが老人に聞く、子供に聞くと深く突っ込んで聞く。</p>
<p>会議の回数を増やしてほしい。</p>
<p>学者、研究者による講演会を催してほしい。</p>
<p>各地で意見を聞く会を開く。単なるイベントに終わらせないこと。</p>
<p>河川敷の利用者、湖岸の利用者にアンケートを行う。もっときめ細かに、地元で意見を聞くこと、今のシンポジウムを行う。(ダム水没地、湖岸地域、中山間地域、河川沿い など)</p>
<p>川の流域に遊んでいる人達に、対面的に質疑応答をして、データの累計をする。</p>
<p>既存計画、整備状況を調整されたい。</p>
<p>行政NPOの情報ルート以外を使って「普通の住民」に対しての働きかけを行う必要がある。例えば、川や水・環境といったテーマに全く無関係なイベントコンサートやショッピングセンターでのイベント。</p>
<p>現地でのイベント。アンケートでは充分意図が伝わらないので、意見が書き込める掲示板が良いのではないのでしょうか。</p>
<p>現地に行かれて様々な住民の声を聞く。このような委員会があることや活動の様子をもっと多くの人に知らせて親しみやすいものにする。</p>
<p>個人意見の聴取では、サイレントピクチャーの意見をどう聴取する方法として、自治会の協力を得て行ったらどうか</p>
<p>このような集いを年に3~4回設けて欲しい。このとき自由意見の発言する場を作って欲しい。今日のは仕立てられたオピニオンの発言の応酬に過ぎない。</p>
<p>細かい範囲で委員会を開き、流域の住民に河川法の改正をしらせてほしい。</p>
<p>これだけ(ホワイエ)Newsを出しているのだから、読める場所を増やし、広報してほしい</p>
<p>今回河川対策委員として取り組みをしていきたい</p>
<p>今回のようなイベントはすばらしい。流域委員会の内容はよく解った。引き続きこのようなイベントを計画してほしい。</p>
<p>今回のように人を集め、現地に赴く。</p>
<p>事業や企業に、そうゆう場を仕事の一部として社員教育としても提供してみては?</p>
<p>自治体等に協力してもらいサイレントマジョリティをほりだすべく主婦層の意見を聞き取る仕組みをつくるべき。河川利用をされる方の多くは月~金に時間を持っている主婦や子供だと考えられるため。</p>
<p>市町村の月報等に載せる。</p>
<p>市町村の広報紙に記事掲載を依頼する。</p>
<p>広報については、工夫を凝らして記者発表し、マスコミでもっと取り上げるように努めて欲しい。</p>

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q4-1. より多くの方々に意見を聴く方法として、具体的なアイデアがあれば教えてください。
市町村の市民課の所に、大きいポスターと共に置く。京都市役所などは出先機関に置くことがよいと考える。国交省では、道路の工事事務所に置いていないのはどういふ事かと思う。
実際に現地で説明会を行って欲しい。
タウンミーティングのような、広い意見を聞く機会を是非作って欲しい。今回のイベントも貴重な機会でした。
地域毎に委員を設置する。
テレビ出演。
テレビによる広報をする。
土木事務所は情報公開の一環として、河川管理だけでなく、環境管理、改善に努力すべきである。
なんとと言ってもTVでのPRが一番です。今はインターネットですが。
ニュースに都度取り上げてもらう。
葉書によるアンケート(イベント申込み時利用)
パネルディスカッションにも話題であった子どもたちも参加可能なイベントを…
ボランティアで川をきれいにする。まず、川の現状を多くの市民に見ていただくことが今後の行動へと繋がっていくのではないのでしょうか。
本会のホームページは一方的な(行政)ホームページである。チャット、掲示板等により意見を求めて欲しい。インターネットを有効に利用して欲しい。
本日のような討論会(オープン)を空期なしに開催して聴者の意見も聴くようにしてはどうか。
先ず、知ってもらうことが必要ですので、意見を聴く前に情報公開を一般向けに行い、現状をよく知ってもらう。それを興味のない人向けにどう行っていくか重要だと思います。
まず、委員会自体を広く一般に知ってもらうことが重要。そうすることによって自然に意見も集まるのでは。
昔の琵琶湖水系を知っている人は高齢者である。私はパソコンを使えるが多くの人は使えないのでインターネットと併せてアンケート用紙を配布するのがよい。葉書のように短文しか書けないものは駄目です。
メールにて意見を投稿する。
もっとテーマをしばり小規模で話し合いという形でやらなければ住民の意見がくみあげられないのではないですか
もっとよく練ったアンケートはできるのではないかと。事務局サイドの方々にも、より深い関心を持っていただけるとよいのではないかと。淀川水系マップ(500円くらい)のものを作って市販してほしい。
やはり、ネットを利用する事だと思う。単なるインターネットアンケートではなく委員と自由にやりとりをすればよく、その上で現地で対面するのはいいかと。
淀川流域委員会の存在を知らない人が多数であろう。もっとメディアを利用してアピールすべきでないか? そうすればまたいろいろな意見が出るのではないのでしょうか。(アンケート用紙を配るとか)
流域センターなど恒常的なシステムをどう作るかがポイントと思う。
流域内の地区・自治会等のレベルにまで入りこんで意見を聴くことが必要。(整備計画(案)について)(用買や移転・生活等への影響が大きい)
流域の河川関係機関(ダムなど)を気軽に住民が訪問できる機会を作る。
流域の小・中学校に川の現状をどうしたらいいのといったところを子供達に聞いていけるようなシステム作れないかなー
委員が実際に現地に赴く
委員が実際に現地に赴く
意見を反映させる方法を考える必要があるのではないかと。他人の意見を聞いても全く自説を曲げない曲げようとしていない委員が多いのではないかと。
各地域で意見交換を行う。一緒の目線で調査を行う住民と一緒に歩くことで見えてくるものがあると思う
京都市内の会場(近くでのシンポジウムに参加)
源流であるびわ湖に流れ込む川辺の人達がこのように川を利用しているか知る事が一番必要では意識の向上も出来るのでは
現場体験会
現地(小学校など)でのイベント(シンポ)
現地の状況や委員会の様子をインターネットで公開する
公開公聴会を、より細かいエリア、範囲で開催する。流域以外でも開催する
公共問題だから新聞、NHK etc
今後皆の大切さを感じる
市町など自治体あるいは、公民館単位での意見交換会
市民を現地調査に参加
実際現地に赴く
周辺住民がアクセスしやすい施設、例えば学校等で今回のようなイベントや流域住民の意見交換できる場を提供してはどうかと思う。またそこで、地元の学生や、その学校に通う学生との意見交換を試みるのもいいと思う。
場所は特に問わないが、委員とマンツーマンで話せるような方法。(郵便等の方法では一方通行で意見が取り入れられたのか、又取り入れなかったとしてもその理由が分らず真剣さがでてこない)

【当日アンケート集計結果・資料編】

Q4-1. より多くみなさまに意見を聴く方法として、具体的なアイデアがあれば教えてください。
新聞に掲載するのが一番広く知らせることが出来ると思う
世論調査の推進と学術調査の積極的公開(一般紙)
地域で活動している人たちのところに流域委員会が行って参加してみる。私の活動 http://www.naomi-ando.com
地域の人々に話してもらう。
地域活動の団体へ出向いて意見を聞く。
流域委員の方々と討論会を開催して頂きたい。個別委員への質問に個別に回答頂きたい。

Q4-2. 今後、流域委員会のイベントや一般の方に意見を聴く会があった場合、参加したいと思いますか。
5 あまり参加したいとは思わない(その理由は)
(通常の会議を傍聴したいを指し)オモシロクナイ
議論の焦点が絞られていない。
委員との討論の応答が必要である。委員が聞きっぱなしの会には参加したくない。

【事前アンケート集計結果・資料編】

Q5-2. 以前から「淀川水系流域委員会」について、知っていましたか？
2 以前から知っていた（知った時期）
2001年2月
2001年9月
1997年
1997年
1年前
1年前
1年前
1年前
1年前
1年前
1年半前
1年半前
2～3年前
2000年
2000年12月頃
2000年
2001年
2001年
2001年12月頃
2001年春(1年前)
2年前
3月
4月
5月
H13.2月
H13年10月
H13年10月
H13年12月
H13年秋
H14.4
H14.4
H14.5
H14年1月
今年の冬頃
最初から
最初から
昨年
昨年2月
昨年4月
昨年6月
準備会から
設立時から
当初より
初めから
初めから
半年前
半年前
平成10年頃
平成13年6月
去年3月
去年春

【事前アンケート集計結果・資料編】

Q5-2. 以前から「淀川水系流域委員会」について、知っていましたか？
2 以前から知っていた（知った時期）
今年4月
最初から
昨春
昨年
昨年2001年8月
設置時
設立時
発足時から
半年前
平成13
本年3月

【事前アンケート集計結果・資料編】

Q5-3. その他「淀川水系流域委員会」の運営に関してご意見、ご要望があればご自由にお書きください。
「中間まとめ資料」等、内容の多いものは可能な限り事前に読んでおきたい。できれば郵送で早めに入手できないか。
100年、200年先を考えた発想をして下さい。(世界の例に参考になる例が多いはずです。)
30年の治水・利水・環境を決めていくようだが、30年間の推測はある程度可能であろうから、前提を明確にし、深く掘り下げるべし。
PR不足では・・・これからは琵琶湖・淀川水系の環境その他に重要な委員会であることをPRする。
Q2で書きました。 大人が川が危険ばかりでないことを、教える為のアドバイスやサポートをするセクションを作って欲しい。
あくまでも「世界大会水のフォーラム」のプレなのか、委員会の構成人員がはたして何人の人なのか、どのような人達なのでしょうか?来年3月にせまる世界大会(国際会館での)にも登録しています。
焦らず、ゆっくりと
あまりお堅い先生ばかりでの運営ではなく、色々な分野・立場の人が参加すべきと考える。
あまり知っていない。今後水の大切感じ
委員会で活発な、建設的な意見を出してもらい、まとめて行政、国政へどしどし物を言ってほしい。反映させてほしい。そして国もしっかりその要望、要求を理解してほしい。また、すべきである。
委員会の運営については門外漢なのでよく分からないが、委員会で検討して欲しいことは川の上流などでのパーベキュー・キャンプの禁止をとりあげてほしい。これらの行為は川を汚すものであるから・・・
委員会は、中間報告などで明らかに間違いであることを指摘しても、何にも訂正することもなく、一般に広く配布していることを見る限り、意見を出してもなんにもならない、誰も見ていないと判断されても仕方ないのでは。
委員の方にも本川を視察するだけでなく、周辺地域の人々との対話で地域住民の声をとり入れたものにして欲しい。特に地域の歴史等も知っておく必要があるのではないかと。
意見感想等に対するフィードバックがない。ただ議事録的に記録にとどめるのではなく、委員会及び各部会がそれに答えていくことが必要だと思う。(結論を出す必要はない。)
意見を吸い上げるために、問題点や検討課題、現状まとめ等情報を投げかけてほしい。
一般住民が求めている川を、自然を今一度お考え頂きたいです。
うらに建設省(現国交省)がひかえており、この答申で市民の声を入れたと思われるでも困る。役所のポーズとしないような運営を持続可能に。
大阪府南部は特にPR不足ではないか。関心を持って協力できる場をつくってもらえば。
河川沿岸の人々の意見を聞くべきだと思います。
河川環境を守るボランティアを計画してほしい。住民が河川の良さを知るきっかけになるのではないのでしょうか。
偏った人選では?
活動報告を定期的に行うことが大切ではないでしょうか。多くの方に知っていただくことが一番であると思う。
川上さんの提案「河川レンジャー」はなぜ若い人でないか。高齢化により中高年者は沢山いる。活用の場、ボランティアの発想はないのか。あってほしい。川を国から地域に取り戻せ。川の家、河川流域センター。
川上氏の発言にあるようにこの委員会で取り上げられる内容が想像以上に重要であることが問題だと思う。
今日の話は治水・利水環境の治水・利水のみ集中して環境の討議がない。遙さんの突っ込みはとっても良かったが余りにも感覚的でもうすこし2~3冊水に関する本を読んできて欲しい。
個人が属する組織の業務の一貫として平日の昼間に会議を傍聴している人が多いと思うが、一般の人こそが参加しやすいように日曜日・祝日や平日の夜等に委員会を開くようにしてほしい。
これからは30年、50年先のあるべき姿を議論してほしい(具体例を示して)。
これから私個人的にも積極的に関わっていければなあと感じます。
様々な立場や意見の人たちに議論してもらおうべきだが、単純な多数決のようなものでなく、洪水危険地域に住む人々の意見が重要視されるようなシステムにしてほしい。
上流域の治水・利水の整備への下流域の理解支援を検討されたい。
新聞などでもっと知らせたい。
整備計画(案)を早く示してほしい。
ぜひともすばらしい活動を期待します。
全体会議が開かれ、世界水フォーラムに連動したイベントの開催。
土木技術者でもっと上手にしゃべれる人はいないのか?
どれだけ住民の意見がとりいれられるのか住民意見の反映についてフォローはあるのか。聞きっぱなしになっていないか。
なにを行っているのか、十分知られていないのではないかと
漂流しているように思えた。パネリストによって目的地が幅広
部会によって委員提出の資料が多いものと、ほとんどないのが分かった。
報告書作成等にお金をかけすぎの感がある。
傍聴することが出来る会場は交通の便の良いところを! 要望は当該担当部署にも確認すべし。
ホンネでホントウのことをもっと社会にアピールしないと世の中は変わらない。(例、流域雨量××mmで淀川は××のあたりで決壊する。)
まとめることより、パネリストの意見の違いがはっきりした点ですごく面白かったと思います。

【事前アンケート集計結果・資料編】

Q5-3. その他「淀川水系流域委員会」の運営に関してご意見、ご要望があればご自由にお書きください。
水に親しむ生活をとりもどすためには水辺の生き物の棲めるきれいな水を守っていくための具体的施策への提言が必要なのは。見た目、イメージだけのきれいさ、危険を防ぐために今までおこなわれてきた治水行政をよりよく変えていくべきなのか?ご意見が抽象的過ぎると思います。環境保全と治水・利水が共存できる技術を探していくべき方向性を持つべきだと思います。
もっと各市町村の庁舎の会議室で開いてほしい。
もっと委員会について一般に広く知ってもらうようにするべき。
流域委員会に「大阪湾」の委員が欠落している。河川法の水利権は利用している流域市民にあり特定水利権が優先している現状を改善すべきである。
流域委員会の下部組織として、河川に密着した活動をしている市民全体を組み込んでいけないでしょうか。
委員構成がかなりよすぎる。川が行われていると言った方が、川は誰が行っているのか、河川対策を委員会は考えているのか。例えば大阪市内河川、本川、平地、農業用水。河川レンジャー、流域センターは新たな公務員を増やそうと考えているのか。
一人一人が水を大切にす気運の醸成
引続き次のこの会に参加したい。
嘉田さんは農業利用と言われていたが、やはり日本も時代が変わった。河川の中で菜園をするなどは「ぜいたく」であり、都市内河川でそのようなイメージを持つべきでない。やりたければ上流であるべき。小供のあそびは最近はいろいろなものができた。
形式だけでなく、行動してほしい。本来は市役所に勤める公務員の仕事ではないでしょうか。行政が動くように警鐘を鳴らしてほしい。
現場視察をして問題意識を共有されたことには敬意を表します。ただ、短期間の現場視察だけでは問題点の一部を垣間みた程度であるということ認識してほしい。現場で365日?かかわっている人々からの情報をもっと集めてほしい。
行政の土木工事が水の汚染、自然破壊を行っていることを言うべきだ(すべて悪いとは言いませんが改良点はあるはず)
最新審議内容及びハザードマップ位はホームページで見れるようにしてほしい
市民が川と関わる機会を増やし、人が行きやすい川を目指してほしい。人も川と関わる事で水質改善、生物多様性の必要性を痛感し、積極的に川を良くしようと努力するでしょう。
自治体の意見に耳をかたむけてほしい、自然な河川(コンクリートではダメ)
住民と一緒に現地調査をやってほしい。ぜひ参加したいと思っています。
住民の意見をどのように運営に反映するのか、明確でない。意見が全く無視されているのではないかと思われるふしがある。意見の統計的処理をお願いしたい。
精力的な各委員会の取り組みに敬意を表します。
他の水系がどのようなことをしているのか知りたい(比較したい)それぞれの川、支流自体についての地域情報がほしい。こんな広いところについて考えるには、地域情報はもはや地元意識では成り立たない。
多くの意見をできるかぎり収集して下さい。
報告書の作成だけでなく、その内容を実行させる具体的方法をも検討し、実行のトレースもしていただきたい。少なくとも実行主体に対して実行の担保を求めることは必要。(報告しっぱなしでは努力が無駄になる。)
遙→364日→1日の命、私財を守り方、平等決定する件
遙洋子さんが主張されている様なあめんぼやもろこが大切なのか、いなくなればリスクを背うのか、何かに川や河川敷を利用出来ればそれだけのリスクは利用しているものが当然負担(行政や国民)
特にありません。
特になし
なし